

山の辺の道 ハイキングコース



石上神宮

歴代の天皇の崇敬が厚く、神庫には多くの武器が収められ、武器についての伝承が多い神社で、神功皇后の摂政52年に百済の使者が献じたという七枝刀（七支刀（国宝））も伝えられている。祭神は布都御魂大神（ぶつのみたまのおおかみ）といわれる神剣。奈良朝以前から神宮の号を使ったのは伊勢神宮とここだけである。



内山永久寺跡

永久2年（1114）に鳥羽天皇の勅願により興福寺大乗院頼実が創建。盛時は52坊を誇ったが、神仏分離の影響を受け廃寺となった。南北朝時代、後醍醐天皇が吉野遷幸のとき立ち寄ったとされる萱の御所跡と本堂池だけが残る。



竹之内・萱生環濠集落

奈良盆地には環濠集落が多いが、竹之内は標高約100mで、県内ではもっとも高地にあるとされる。南北朝時代から筒井順慶による統一まで、大和の戦国乱世が生んだ自衛の集落で、周囲に用水池を兼ねる濠を、内部に竹やぶを植えこんだ。竹之内のほか、萱生にも同様の集落が残る。



夜都伎神社

春日大社の4神を祀り、拝殿の萱葺き屋根が珍しい。バス停への道に建つ鳥居は嘉永元年に春日若宮から移したものである。



大和神社

山の辺の道より西に位置し、鬱蒼とした森が広がり350mもの参道を抜けると、大和神社がある。4月1日には、大和にいち早く春を告げる「ちゃんちゃん祭」が行われる。また、9月23日には、市無形民俗文化財に指定されている、雨乞満願の「紅幣（べにしで）踊り」が奉納される。



黒塚古墳

柳本古墳群の一つで、全長約130mの前方後円墳。平成10年（1998）に、卑弥呼の鏡ともいわれる33面もの三角縁神鏡が出土した。隣接する黒塚古墳展示館内には、竪穴式石室が原寸大で復元されており、鏡や鉄製品のレプリカ等が展示されている。



長岳寺

9世紀に淳和天皇の勅願を受けて弘法大師が開いたと寺伝にいう古刹で、釜口山上にあることから「釜の口のお大師さん」としても知られている。盛時には42の堂宇を数えたといわれるほどだが、幾度かの兵火や神仏分離にあった。

